

物質と生命との間の ミッシング・リンクを埋める

講演者

菅原 正 (東京大学大学院広域科学専攻教授)

司会

小林康夫 (UTCP)

2010年1月25日(月曜日) 17:00-19:00

東京大学駒場キャンパスアドミニストレーション棟3階

学際交流ホール

【構成的アプローチによる生命の理解】

生命の最小単位である細胞は、細胞膜、酵素やDNAなどの高分子、ATPなどの小分子、金属イオンなどが整然と積み上げられて、その機能(生命活動)を発現している。菅原研究室では、このような細胞を階層的な分子システムとして捉え、構成的手法によりモデルシステムを構築してきた。さらに生物学や物理学の研究者と議論しながら、生命の理解のための新たな研究手法やアプローチを提唱している。(引用元: 菅原研 Website, <http://pentacle.c.u-tokyo.ac.jp/top.html>)

今回の講演会では、菅原先生の駒場での研究を振り返っていただきます。「生命らしさ」を作り出すことで物質と生命の間を埋めようとする試みと、「生命とはなにか?」という問題について、文理横断的に大いに論じていただきます。

共生のための国際哲学教育研究センター (UTCP)

<http://utcp.c.u-tokyo.ac.jp/>